

平成 30 年 12 月 6 日

嬉野市議会  
議長 田中 政司 様

文教福祉常任委員会  
委員長 増田 朝子

## 文教福祉常任委員会報告書

平成 30 年 9 月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則 107 条の規定により報告する。

### 付託事件名 農福連携について

#### 調査理由

本市において、少子高齢化の影響で農業の後継者不足、農業就業者の減少による耕作放棄地の問題も大きな課題となっている中で、この 6 月には第 2 次嬉野市総合計画が策定され、その中にも「農福連携の推進」が掲げられている。そこで今回、「農福連携」の先進地である名張市と京田辺市のさんさん山城の取り組みについて調査をおこなった。

#### 調査の概要

#### 「農福連携の取組について」 「名張市障害者アグリ雇用推進協議会」

調査日 平成 30 年 10 月 31 日（水）  
視察地 三重県名張市  
対応者 産業部 農林資源室 岩本靖之氏  
福祉子ども部 障害福祉室長 田中資三氏  
名張市地域包括支援センター 池上祥二氏  
障害者人材センター 障害者就労支援員 水本清知氏

#### 名張市の概況

人口 78,894 人（平成 30 年 9 月 1 日）  
老年人口 24,106 人 高齢化率：30.6%

農家の経営耕地面積 858ha 内水稲作付 648ha  
農家戸数 1,294 戸（販売農家 824 戸、自給的農家 470 戸）  
※農家 1 戸当りに換算すると 66.3a（平成 27 年度）  
主な農産物 水稲（コシヒカリ）、果樹（ブドウ）、畜産（伊賀牛）、野菜（多品目野菜）

## 調査内容

「名張市障害者アグリ雇用推進協議会」

- ・市長が県議時代より「園芸と福祉」「農業と福祉」に関心が深く、農業分野における障がい者雇用（就労）を目指し、農業、福祉、特別支援学校等の関係者及び行政が連携し、国庫補助を受け、平成 21 年 2 月設立。
- ・当初の 3 年間は、国庫補助事業として取り組み、その後、継続の必要性が高いことから市の委託事業として取り組んでいる。
- ・障がいのある人が、社会を構成する人として、自立した生活を営むために必要なことを農業を通じて学び、スキルアップの訓練をするとともに、障がいのない人においても、この活動に参加し、障がいのある人もない人も互いに人生を分かち合い、重ね合わせること（ライフシェアリング）により、誰もが共に、生き生きと暮らせることのできる地域づくり、共生社会を目指す取り組みを行っている。
- ・農業ジョブトレーナーの確保と育成について  
毎年、3 日間の養成講座を行い、平成 30 年度は 14 人の受講者があり、現在、登録者数は 84 人。
- ・これまでは、天候など環境に左右されていたが、水耕栽培であれば年間を通して仕事ができ、就労につながった。
- ・構成団体  
農業関係：伊賀ふるさと農協、名張市農業経営者クラブ、日本園芸福祉普及協会  
福祉関係：名張育成会、名張市手をつなぐ育成会、名張市精神障害者家族会、  
名張市身体障害者互助会  
学識教育関係：桃山学院教育大学名誉教授、県立特別支援学校伊賀つばさ学園  
地 域：美旗まちづくり協議会ビジョン委員会  
行政関係：三重県伊賀地域農業改良普及センター、名張市（福祉子ども課、産業部）、  
名張市農業委員会

## 「農福連携の取組について」 「山城就労支援事業所 さんさん山城」

調査日 平成 30 年 11 月 1 日 (木)  
視察地 京都府京田辺市 さんさん山城  
対応者 施設長 新免 修氏 管理者 藤永 実氏

### 「山城就労支援事業所 さんさん山城」の概要

**事業名** 就労継続支援 B 型 (通所型)、主に聴覚障がい者を対象とした就労継続支援  
**定員** 20 名  
**職員** 9 名  
**対象者** ろう者、難聴者、精神障がい者、知的障がい者  
**作業内容** 農業、菓子、食品加工品製造、コミュニティカフェ、縫製、紙細工、木工、それらの販売

### 沿革

2011 年 開所  
2015 年 京都ちーびずセレクション  
「地域地産賞 (えびいもコロッケ)」  
「味わい賞 (濃茶大福)」  
「グッドデザイン賞 (抹茶クッキー)」受賞  
2015 年 農林水産省「農福連携 特別展示」  
モデル事業所に選出 (全国から 9 事業所)  
2017 年 農林水産省 近畿農政局  
「近畿『ディスカバー農林漁村 (むら) の宝』 (第 1 回) 受賞

### 取組内容

- 廃園予定であった茶畑を借り受け、宇治茶を栽培。また、人手を要する茶苗木づくりを実施。
- 宇治茶以外にも地域の特産品であるえびいもや田辺なす、一般野菜を生産。
- 生産した抹茶や野菜を贅沢に使用した大福やクッキー、コロッケ等を製造・販売。

### 活動の成果

- 農業生産のみならず、加工、販売も行うことにより多様かつ通年の就労の場を提供。
- 高齢化等により担い手が減少するなか、新たな担い手として、産地の維持、発展に寄与。
- 加工品は JA 直売所等での販売が評判を呼び、受注生産依頼も増加。

## 今後の方針

○地域に根ざした事業として、農業を中心とした日本の伝統文化に相応しい仕事に取り組み、障がいのある方々が地域で生き生きと働ける環境づくりを目指し、地域の活性化に寄与する。

## 委員会の意見

名張市の「名張市障害者アグリ雇用推進協議会」と「山城就労支援事業所 さんさん山城」の取り組みは、地元障がい者において農業を核とした労働機会の拡大、社会参加につながっている。

高齢化などで担い手が不足する農業と収入を得るための就労先の確保が困難な障がい者とをマッチングし両者の課題を解決しようとする農福連携は、障がい者だけでなく、高齢者、引きこもりや社会参加ができない人の誰もが自然に触れ、農作業に従事することで自分の居場所を見つけ、心身の成長に好影響を及ぼしている。また、地域の人との交流が生まれることで、共に生き生きと暮らせることのできる地域づくり、共生社会へつながると考える。

本市において、農福連携を推進するにあたっては、まずは、農業と福祉双方のニーズを把握、整理し、さらに双方をマッチングするコーディネーターが必要であると考え。そのためにも、幅広い意見を取り込めるように各種団体を含む協議会等の設置など、早急な環境整備が必要と考える。